

ジュネーブ便り 第5回

インダストリアル本部造船・船舶解撤
ITC・電機・電子部門担当部長

松崎 寛

インダストリアル・ グローバルユニオンの 本部書記局体制

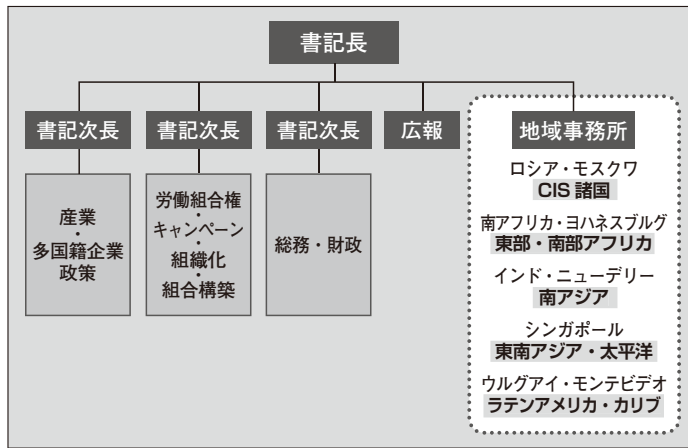
6月18〜20日、国際金属労連（IMF）はその119年の歴史に幕を閉じ、国際化学エネルギー鉱山一般労連（ICEM）および国際繊維被服皮革労組同盟（ITGLWF）と統合して、5000万人の組合員を有する大製造業インターナショナル Industrial Global Union（インダストリアル・グローバルユニオン）（以下、インダストリアル）に生まれ変わりました。本稿では、インダストリアル本部の新書記局体制について紹介したいと思います。

多様性に富む本部書記局

この度の統合では、ジュネーブにあるIMF本部事務所を年内に改装して、インダストリアル本部事務所として使用することになっていきます。（改装期間中は、同じくジュネーブにある旧ICEM本部事務所も併用。）統合直前のIMF本部は24名体制でしたが、統合後は、役員4名、部長以下スタッフ35名の計39名となりました。役員全員をあわせると、出身国数は18カ国、書記局内で扱うことのできる言語は約15カ国語にのぼります。140カ国をカバーすることになったインダストリアルにとって、3組織それぞれの特徴や強みを生かして労働運動の相乗効果を高めていくためには、異なった文化や組合活動の相違を理解し、なるべく多くの言語でコミュニケーションを図ることのできる体制が求められます。そうした意味で、今回の統合により多様性の富む本部書記局体制になったメリットは大きいものがあります。（写真下）

ただ、本部書記局のなかで、アジア人は39名中わずか2名（日本人の私と韓国人。アジア・太平洋地域）インダストリアル定義では、東アジア、東南アジア、南アジア、およびオセアニア地域）の加盟組織数がIMF時代の48から約170組織に増加し、今後最も教育活動や組織化に力を入れていなくてはならない地域であることを考えると、私自身、アジア人2名という人数は明らかに少ないと感じています。インダストリアルは東南アジア事務所（所在地：シンガポール）と南アジア事務所（所在地：インド・ニュー





デリー)を通じて活動強化を図っていく予定ですが、同地域の加盟組織による今後の人材育成が期待されるところです。

新本部機構と統合のメリット

新たな本部機構(図表)は、書記長を書記局の総責任者とし、書記次長3名が「産業・多国籍企業政策」、「労働組合権・キャンペーン・組織化」の3グループの責任者としてそれぞれ担当します。「広報」と「地域事務所」は書記長直轄のグループとなり、とり

わけ「広報」については、インターネットを通じてニュースや情報を迅速に発信するため、加盟組織や労働活動家がいやすいホームページやソーシャルメディア(フェイスブックやツイッター)の拡充に力を入れていきます。インダストリアルホームページでは書記長コーナーも開設しています。

私の所属する「産業・多国籍企業政策」では、IMF時代の8部門から15部門(そのほかに部門横断的グループとして2部門)が増え、これにより各部門との情報交換や活動に関する連携の幅が広がりました。私の担当の1つである造船・船舶解撤部門の例をみると、これまでの造船・補修、船舶解撤・リサイクルのみならず、原材料を掘り出す鉱業から素材金属、船のエンジンや部品を担当する機会エンジニアリングを含め、船舶の「ゆりかごから墓場まで」をカバーすることができ、産業政策を考えるうえで役立っています。3組織の統合によって、製品のライフサイクルにおける全製造工程の職場をインダストリアル1組織のみで網羅できることのメリットを最大限に活用していきたいと考えています。

「労働組合権・キャンペーン・組

織化組合構築」グループについては、統合によるメリットは明らかです。具体的には、ITGLWFが行ってきた繊維・被服部門におけるリビン

グウェイジ・キャンペーン(発展途上国において操業する多国籍企業に対し生活賃金を約束させるキャンペーン。主にカンボジア、バングラディッシュが対象)を金属部門においても広げる活動をすでに開始しています。IMFとICEMを中心に行ってきたオフ・ザ・ボディウム・キャンペーン(反労働的な行動を取るリオ・ティント社は2012年ロンドン五輪のスポンサーで、メダル製造用金属の99%を供給しているため、同社のオリンピック関連事業からの撤退を要求するキャンペーン)の賛同組織数も増加しています。

IMF本部も、多種多様な「動物園」の様相を呈していましたが、今回の統合でインダストリアル本部は更に多種多様となり「サファリパーク」に発展したと感じております。肉食系、草食系など(笑)多様な人材が、様々なアイデアを出し合いながら活動を進めていこうと努力しています。私もサファリパークの一員として、組合員の皆様を常に魅了していけるような仕事を心がけたいと思います。



松崎 寛 まつざき・かん

1998年IMF-IRCに入局。国際局、政策局で主任として産業政策、環境政策の立案をはじめ海外労働紛争防止ツールの作成などに活躍。2010年9月1日から家族同伴でIMF本部に赴任。12年6月からはインダストリアル本部に。現在の担当役職は、産業政策・多国籍企業政策グループの造船・船舶解撤/ITC・電機・電子部門担当部長。